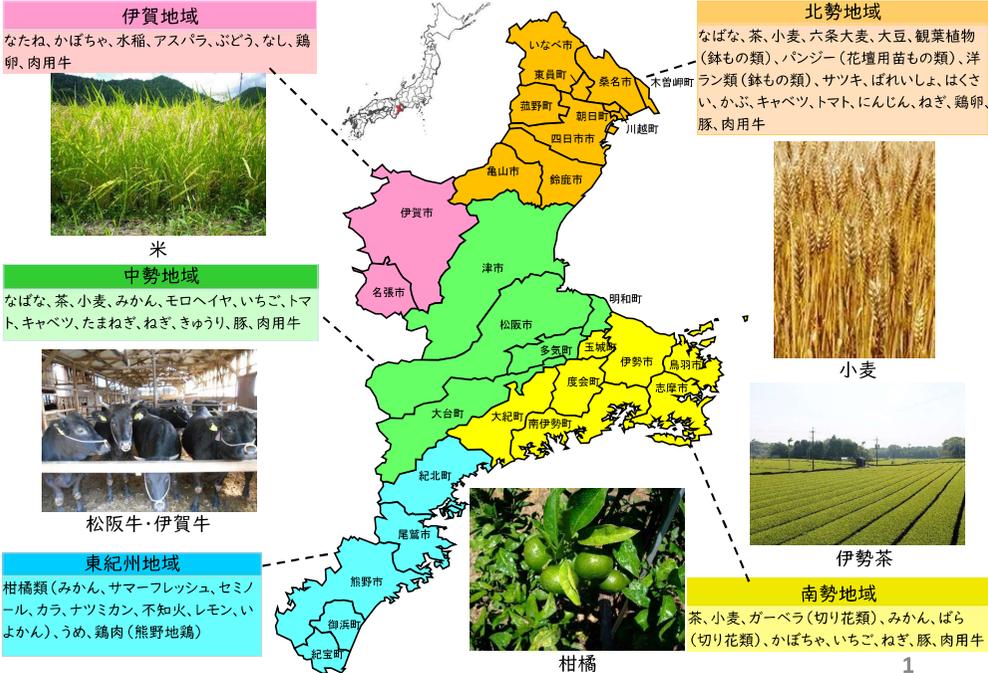


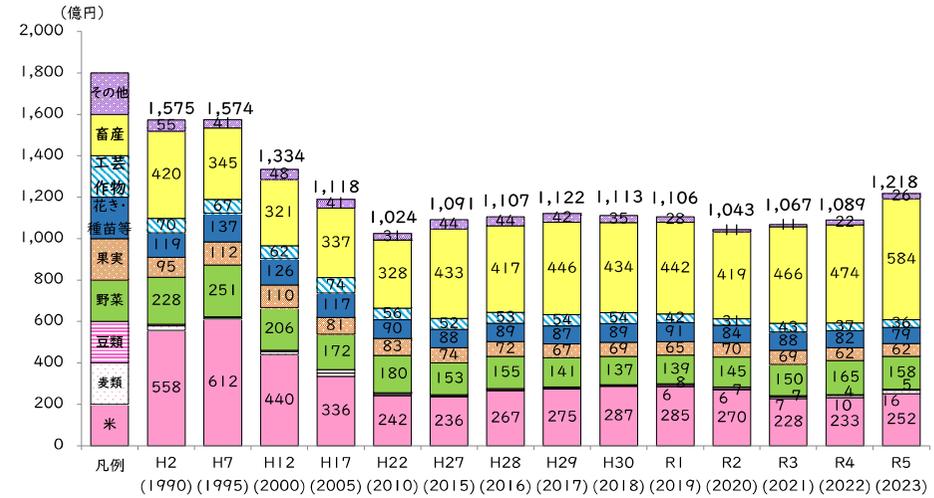
三重県農業の現状と課題

令和7年5月29日(木)
農林水産部

三重県の主な農産物



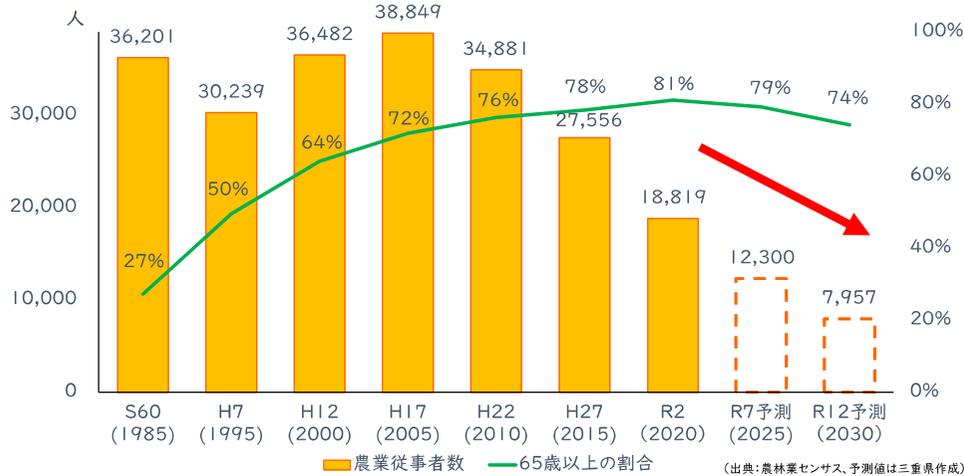
三重県の農業産出額の推移



- 本県では、少量多品目の農産物が生産されており、農業産出額は、1,218億円（令和5年）で前年より増加 近年は横ばい傾向で推移
- 米の産出額が減少傾向にある一方で、畜産の産出額は増加傾向で推移 2

三重県の農業従事者数の推移と予測

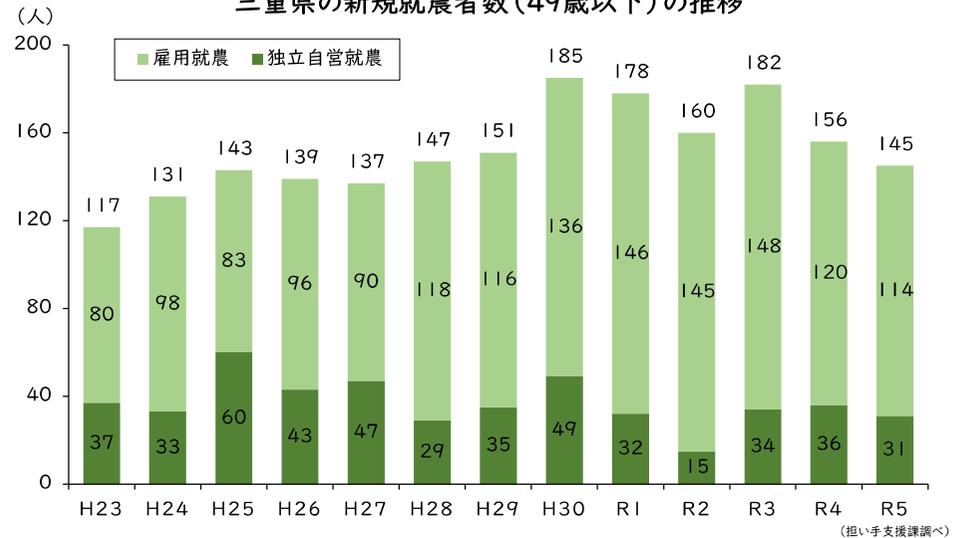
農業従事者数の推移と65歳以上の割合



- 農業従事者は18,819人（令和2年）となっており、年々減少傾向
- 65歳以上の割合が81%（令和2年）と高齢化が進行
- 今後、多くの方々がりタイアすることにより、大幅な減少が予測

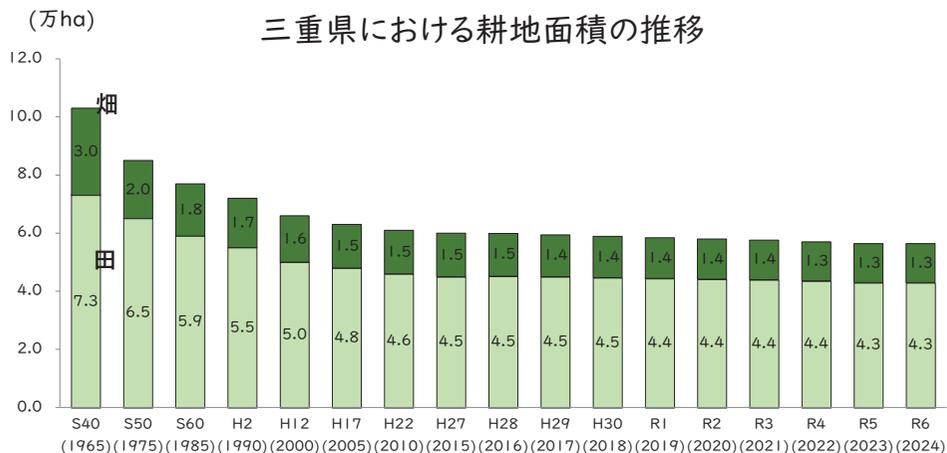
新規就農者数の状況

三重県の新規就農者数（49歳以下）の推移



- 新規就農者数は170人前後で推移していたが令和5年度は145名に減少
- 新規就農者のうち、約8割が雇用就農

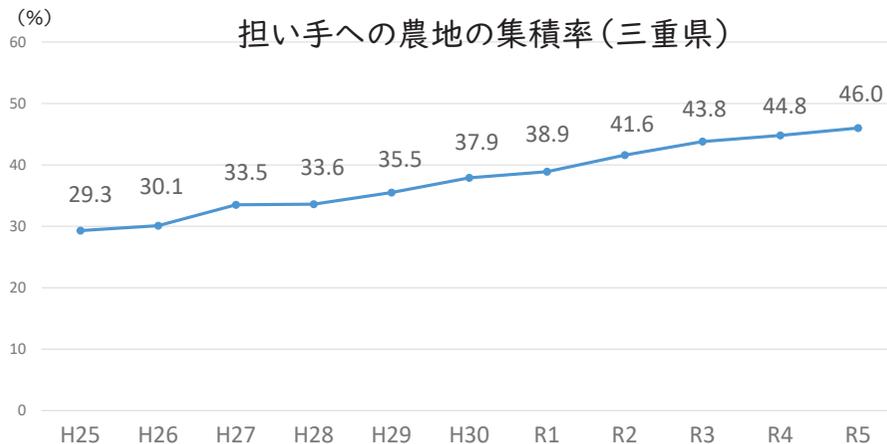
農地(耕地)の状況



出典:農林水産省「耕地および作物面積統計」

- 耕地面積は年々減少してきており、現在は5.6万ha(令和6年)
- 近年は横ばい状況で推移

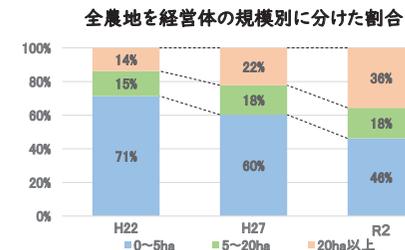
担い手への農地集積の状況



(出典:農林水産省)

- 令和5年度時点で農地の46.0%が担い手に集積
- 担い手への農地集積は10年で16.7%上昇

大規模経営体への支援



20ha以上のまとまりで経営される農地の割合が増加



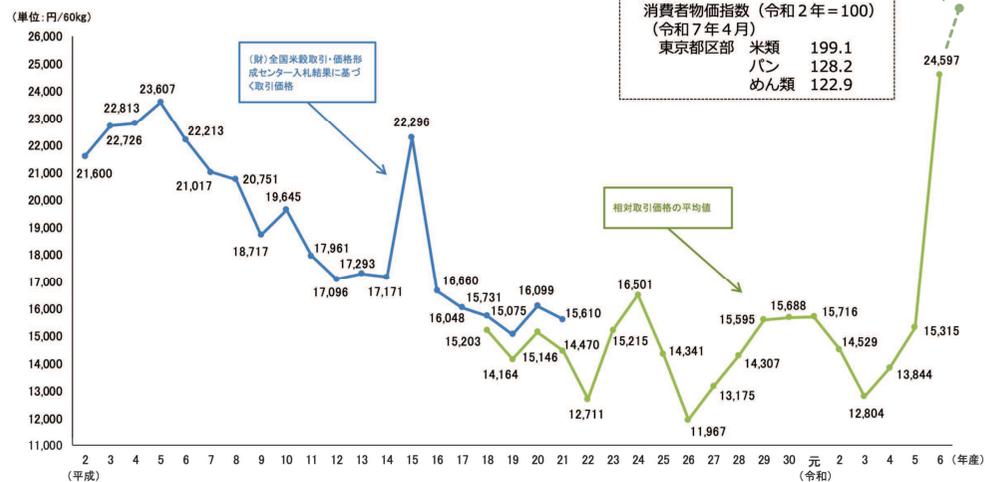
農地中間管理事業による農地の集積・集約化
農地中間管理機構(農地バンク)を活用し、担い手へ農地の集積・集約化を推進



規模拡大に向けた施設・機械導入への支援

- 規模拡大に向けた施設・機械導入への支援
- 「地域計画」の策定を通じて農地利用の目指すべき姿を明確化し、農地中間管理事業により農地の集積・集約化を推進

長期的な主食用米の価格の動向



令和7年4月現在
27,102円

【参考】消費者物価指数(令和2年=100)(令和7年4月)

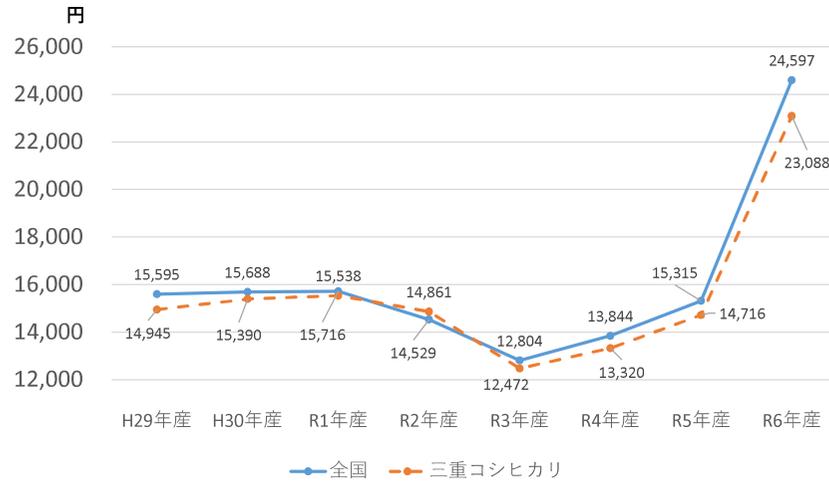
東京都部	米類	199.1
	パン	128.2
	めん類	122.9

資料: (財)全国米穀取引・価格形成センター入札結果、農林水産省「相対取引価格」
注1: 価格には、包装代、運賃、消費税相当額等を含む。
注2: 年度別平均価格(令和6年度は、出回りから令和7年4月までの速報値)。

※・コメ価格センター取引は、自主流通米の指標価格の形成を図るために実施されていたが、平成16年の食糧法改正により計画流通制度が廃止され、義務相場がなくなったこと等を背景に取引が低調となり、平成21年度をもって取引を中止。
コメ価格センター取引が低調となったことを受けて、コメ価格センター取引価格の指標性を確認する観点から、相対取引価格について、農林水産省が18年度米から年間取扱数量5,000t以上の全国団体等と卸売業者の取引価格を調査、公表。その後も米の価格動向を把握するため引き続き実施。

米の相対取引価格の推移

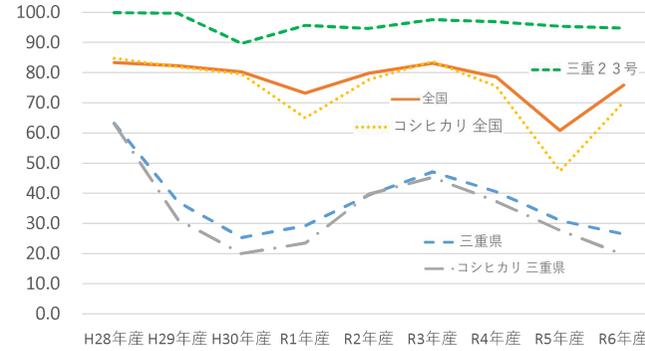
全国と三重県産米の相対取引価格の推移（平均価格）



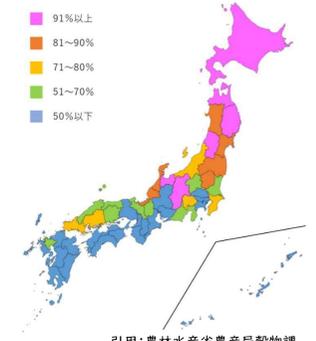
※ 米に関するマンスリーレポート資料編（令和7年5月号）
 : 米の相対取引価格の推移（通年平均価格）
 ※ 令和6年産米の相対取引価格・数量（令和7年4月）（速報）

1等米比率の推移

1等米比率の推移



都道府県別(R6年産・3月末)



引用：農林水産省農産局穀物課

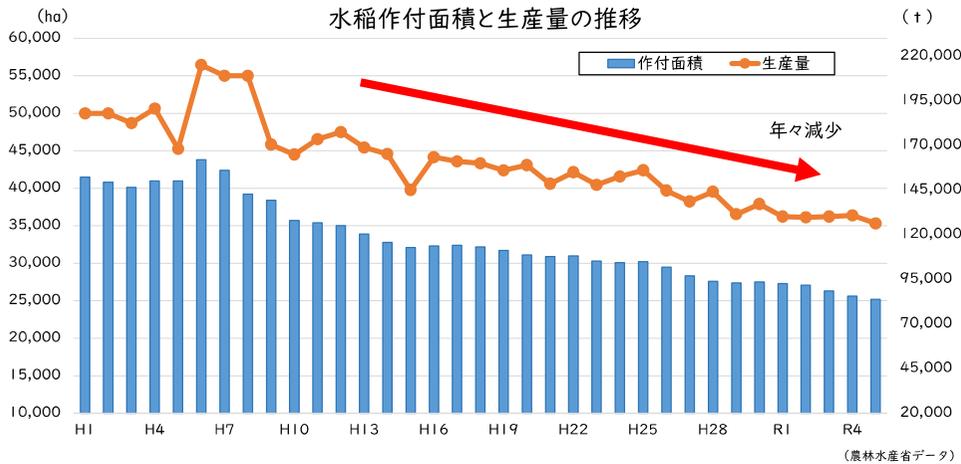
1等米比率の推移（水稲うるち玄米）

	H28年産	H29年産	H30年産	R1年産	R2年産	R3年産	R4年産	R5年産	R6年産
三重県	63.2	37.2	25.3	29.3	39.4	47.1	40.5	31.0	26.4
全国	83.4	82.3	80.3	73.2	79.8	83.1	78.6	60.9	75.9
コシヒカリ	63.1	31.3	20.0	23.5	39.7	45.3	37.3	27.7	19.6
全国	84.8	81.9	79.6	65.0	77.7	83.7	75.5	47.4	70.3
三重23号	99.9	99.7	89.7	95.7	94.7	97.6	96.9	95.4	94.8

農林水産省公表データ

三重県の水稲作付の推移と米消費量の減少

水稲作付面積と生産量の推移

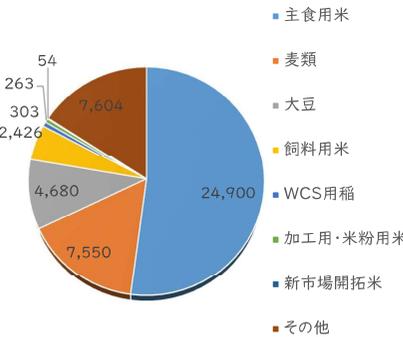


（農林水産省データ）

• 20年間で1人当たりの米の年間消費量は約2割減少
 （平成14年度：62.7kg→令和4年度：50.9kg） 食料需給表より

水田の有効活用と麦・大豆の生産

水田における品目別作付面積（令和5年度）



水田面積 43,100ha

（農林水産省データ）
 ※大豆は麦跡作付が多いため個々の品目と全体の合計値は一致しません



- 水田の58.3%で主食用米を生産、米以外の品目として麦、大豆を中心に生産拡大を推進
- 令和5年産の小麦面積は7,440ha（全国4位）、大豆面積は4,680ha（全国10位）
- 麦、大豆それぞれ、県内の実需者と連携しながら生産拡大や品質向上の取組を実施

農地集積・集約化に向けた生産基盤の確保

優良農地の確保



農業生産基盤の整備



大区画化



パイプライン化



自動給水栓

- 農地法・農業振興地域の整備に関する法律などの適正な運用を通じて、計画的で秩序ある土地利用を推進
- 荒廃農地の発生防止・解消の推進

- ・担い手が営農しやすい優良農地の確保。県全体のほ場整備は、要整備面積 43,000ha に対して、令和6年度末までに36,418ha が完了（整備率 84.7%）
- ・効率的かつ安定的な農業経営の実現に向け、農地の集積・集約化やスマート技術等の導入に資する農業生産基盤の整備

13

農畜産物の販路拡大（ブランド化）



県産米アンバサダーによる販売促進



伊勢茶のPR

- ・県産米について、「アンバサダーマーケティング」の手法を取り入れた販売促進や、県産ブランド米「結びの神」の販売促進を実施
- ・伊勢茶について、「マイボトルキャンペーン」の展開や新たな商品やサービスの開発を通じた販売促進を実施

15

気候変動への対応や安定生産に向けた研究開発

気候変動への対応 ～新品種の開発～



夏の高温に強く、外観品質が優れる

水稻品種：三重23号、なついろ



高温多湿で発生しやすい炭疽病への抵抗性をもつ

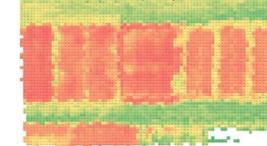
イチゴ品種：うた乃、かおり野

スマート農業の推進 ～ICTの活用～

・ドローンセンシングによる高品質米生産技術の開発

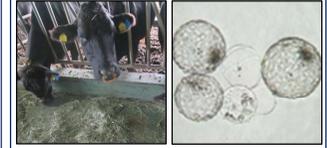


センシング結果



畜産物の安定供給 ～和牛牛の供給体制強化～

受精卵生産技術の開発



・体調不良を感知し、管理者に知らせる衣類型デバイス



- ・気候変動に対応した新品種や新技術の開発
- ・スマート機器の活用による生産性向上、労働環境の改善
- ・県産和牛牛の供給体制強化に向けた技術開発

14

農畜産物の販路拡大（海外への輸出促進）



タイでの柑橘の販売



ベトナムのカフェの伊勢茶商品



県産ブランド和牛の現地商談

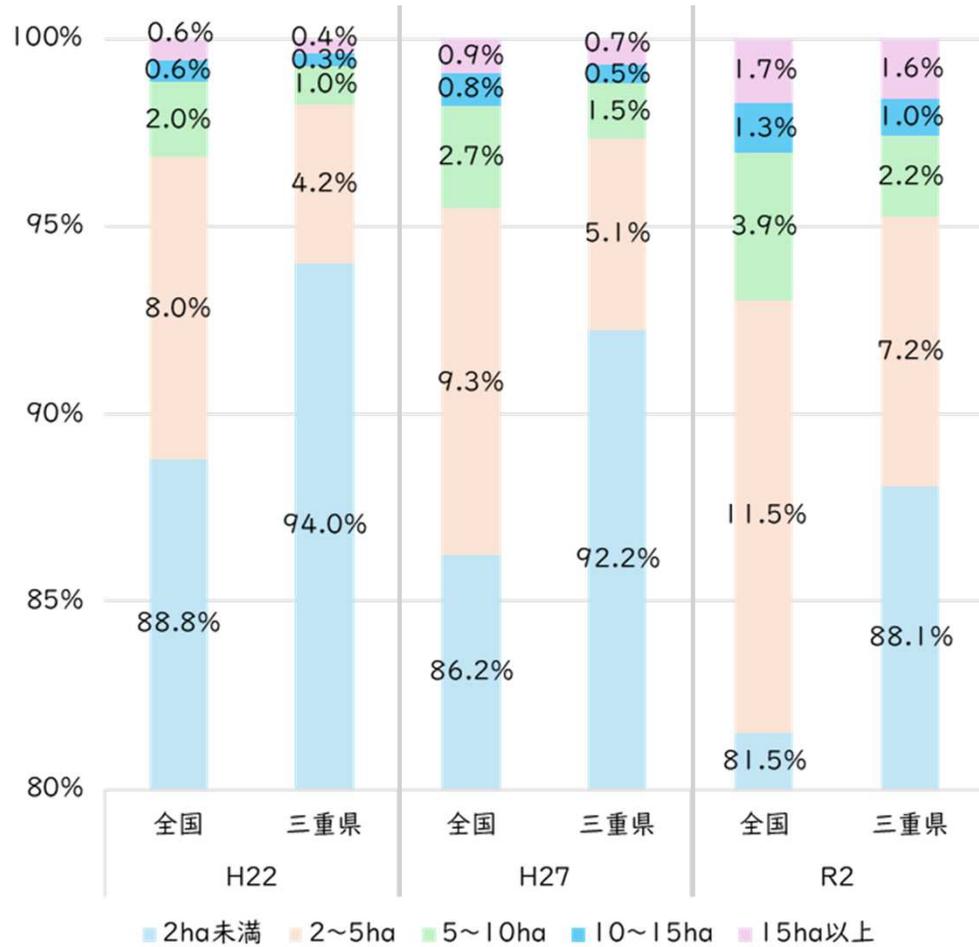
- ・柑橘については、タイへの輸出の増加に向けて、輸出規制に対応した病害虫の予防・駆除を推進
- ・伊勢茶については、現地ニーズに応じた商品開発や、販路拡大のためのプロモーションを実施
- ・県産ブランド和牛については、輸出先候補国で開催される展示会への県ブース出展や、現地商社との個別商談の場の設定等により、販路拡大をめざす県内の産地や事業者の意欲的な取組を支援

16

品目	産業政策	「人」		「農地」		「技術」		「販路開拓」		地域政策	条件不利地
		担い手・労働力 新規就農者	集積・集約化	基盤整備	機械化・省力化 スマート農業	新技術・品種	ブランド化 観光産業との連携	輸出			
水田農業 (米、麦、大豆、野菜)	<ul style="list-style-type: none"> 法人・経営者の育成 新規就農者の育成 労働力の確保 集落営農の推進、家族農業の維持 農業支援サービス事業体の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 100ha以上を集積する大規模経営体も存在する一方、担い手不在の地域があるなど偏在 	<ul style="list-style-type: none"> 大区画化、農業用水路等の整備 農業用ため池や排水機場の防災・減災化の整備 水路・農道等の保全管理 	<ul style="list-style-type: none"> ドローン活用や農機の自動運転等スマート技術の導入による効率化 	<ul style="list-style-type: none"> 県産米「結びの神」等の高温耐性品種の導入 多収品種の導入拡大 麦・大豆の排水性対策等の収量向上技術 	<ul style="list-style-type: none"> 県産米「結びの神」のPR ブランド力向上 	<ul style="list-style-type: none"> 輸出向け米品種(多収性)の導入 輸出先国への輸送で生じる品質低下への対応 	<ul style="list-style-type: none"> 中山間地域等直接支払、多面的機能支払制度の活用 水路・農道等のインフラ維持管理の労働力確保 農業支援サービス事業体による営農サポート促進 			
柑橘	<ul style="list-style-type: none"> 法人・経営者の育成 新規就農者の確保・育成(農業生産法人によるトレーニングファーム機能などの受入態勢の充実) 労働力の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 園地整備が実施され、スマート技術も導入できる優良園地を新規就農者に提供していく仕組みづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 優良品種への改植 小規模な園地整備 農業用水の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ドローン、乗用防除機の導入による省力化 	<ul style="list-style-type: none"> 省力樹形の導入 柑橘「みえ紀南1号」等優良品種の導入拡大 高温に対応する技術の開発・導入 	<ul style="list-style-type: none"> 柑橘「みえ紀南1号」のPR ブランド力向上 消費マーケットへの売り込み 	<ul style="list-style-type: none"> 輸出先国への輸送で生じる品質低下への対応 	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源を活用したビジネスの展開やその人材の育成 農山村地域における交流人口の拡大 野生鳥獣被害対策 			
伊勢茶	<ul style="list-style-type: none"> 法人・経営者の育成 新規就農者の育成 労働力の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 茶工場の処理能力がボトルネックとなり担い手への集約・規模拡大を制限 	<ul style="list-style-type: none"> 優良品種への改植 小規模な園地整備 	<ul style="list-style-type: none"> 乗用摘採機、乗用防除機の導入により省力化が進展 	<ul style="list-style-type: none"> 需要の見込める、「てん茶」、「かぶせ茶」の生産拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 伊勢茶文化の普及 観光業・飲食業等との協力 	<ul style="list-style-type: none"> 海外で好まれる有機栽培茶の拡大等、他産地との差別化 				
施設園芸 (野菜)	<ul style="list-style-type: none"> 法人・経営者の育成 新規就農者の育成 労働力の確保  	<ul style="list-style-type: none"> 産地として、集荷・選果施設を共同利用しているが、老朽化により修繕・更新が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 生産施設の整備 	<ul style="list-style-type: none"> データに基づくハウス内環境制御等スマート技術の導入 	<ul style="list-style-type: none"> 高温に対応する品種や技術の開発・導入 	<ul style="list-style-type: none"> イチゴ「うた乃」のPR ブランド力向上 消費マーケットへの売り込み 	<ul style="list-style-type: none"> 県産成品種の知的財産保護(イチゴ) 				
花き花木	<ul style="list-style-type: none"> 法人・経営者の育成 新規就農者の育成 労働力の確保  	<ul style="list-style-type: none"> 物流効率化のための共同集荷拠点の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 遊休施設のリフレッシュ化、沿岸地域での排水対策 	<ul style="list-style-type: none"> 環境制御機器等のスマート技術導入 	<ul style="list-style-type: none"> ホームユース需要の高い樹種の導入 	<ul style="list-style-type: none"> サツキ「伊勢シリーズ」のPR 花き文化の普及 	<ul style="list-style-type: none"> 高品質な伊勢の切り花の輸出検討 				
畜産	<ul style="list-style-type: none"> 大規模法人経営への集約化が進展  	<ul style="list-style-type: none"> 牛、豚、鶏いずれも飼養頭羽数の大規模化が進展 	<ul style="list-style-type: none"> 畜舎等の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 自動給餌技術等の導入による省力化や生産性向上 	<ul style="list-style-type: none"> 家畜防疫対策の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 松阪牛・伊賀牛の価値継続 養豚や鶏では地域ブランド化 	<ul style="list-style-type: none"> 県産和牛の輸出拡大 				

 : 課題にさらに力を入れて取り組んでいく必要がある
 : 課題に力を入れて取り組んでいる
 : 課題に取り組んでいる

水稲作付経営体の規模別割合

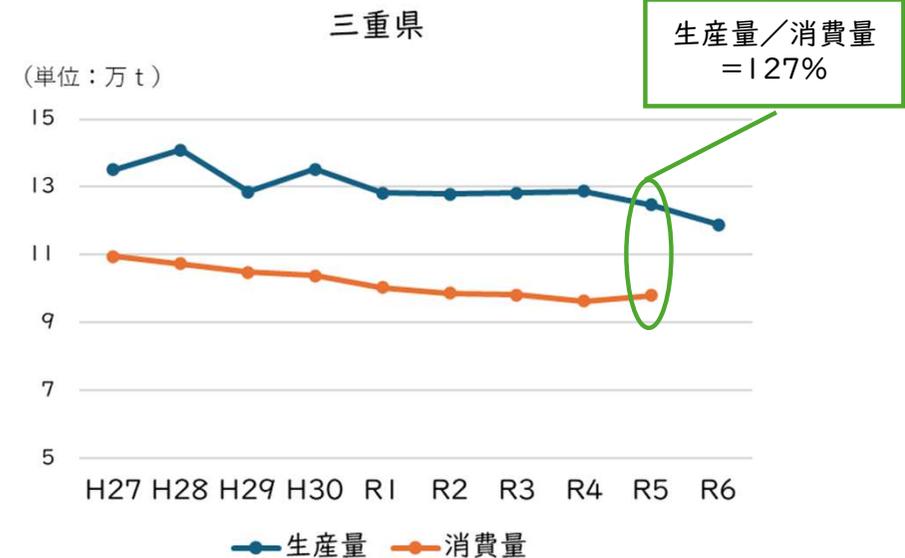
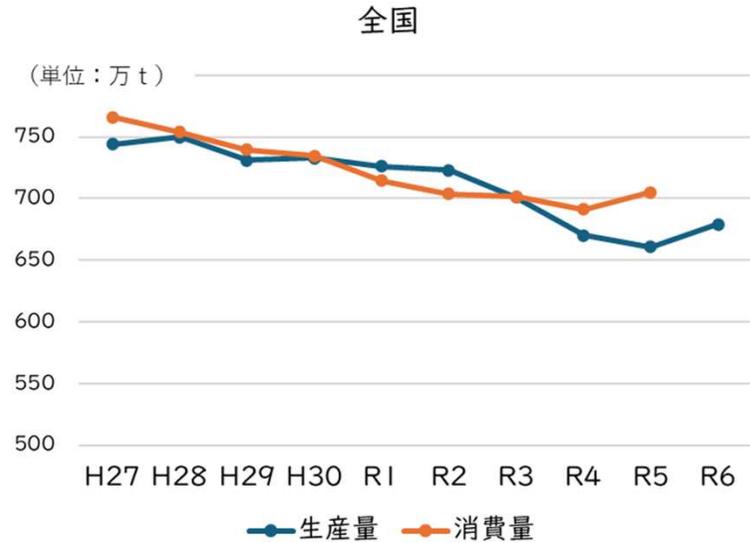


※「農林業センサス」(農林水産省)から出典

- 15ha以上の大規模経営体の割合は、全国と同程度
- 2ha未満の経営体数の割合は、全国と比較し、約7ポイント高い

米の生産量・消費量の推移

資料2
(追加)



※生産量:「作物統計調査」(農林水産省)から出典

※消費量:「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」(農林水産省)から推計

- 全国は、生産量(661万トン)及び消費量(705万トン)ともに減少傾向
- 三重県は、生産量12.5万トン、消費量9.8万トン。生産が消費を上回っている。傾向としては、生産量及び消費量ともに漸減